

# ■ BLoC2011 競技規則

## 1 概説

1.1 BLoC2011は、ボルダリングでの競技とする。

1.2 カテゴリーは、『レギュラー男子』、『ミドル男子』、『レギュラー女子』と『エントリークラス』からなるシリーズ戦に加え、各ジム主催者の判断により上記以外のカテゴリー（シリーズ戦ではない）を設けることもできる。

	<男子>	<女子>
カテゴリー (案)	レギュラー男子 BJC でセミファイナルに進出していない	レギュラー女子 BJC で1~3 位の入賞経験のない
	ミドル男子 レッドポイントが概ね 2 級まで	
	エントリークラス レッドポイントが概ね 4 級まで(男女混合)	

※レベル的にはレギュラー男子が、昨年のファイナリストクラスのメンバーをイメージしています。

※ミドル男子は昨年の予選 5~6 課題完登者をイメージしていて、レギュラー女子と同程度くらい。

※エントリークラスは昨年のエントリークラスよりも易しくしたいですね。予選で 4 級までくらいまでをイメージ。

1.3 参加資格は以下の通りとする。

1)レギュラー男子はボルダリングジャパンカップでセミファイナルに進出経験のない男子(一部特例あり)。  
また、該当ボルダリングジャパンカップは第4回~第6回です。

●該当ボルダリングジャパンカップ⇒

第4回川越大会、第5回深谷大会、第6回長崎大会

2)エントリー男子は、レッドポイントが概ね4級までの男子。

3)レギュラー女子はボルダリングジャパンカップで1位~3位の入賞経験のない女子(一部特例あり)。  
また、該当ボルダリングジャパンカップは第1回~第6回です。

4)エントリークラス(男女)は、レッドポイントが概ね4級までのもの。

1.4 競技方法は以下の通りとする。

1)レギュラー男子・ミドル男子・レギュラー女子に関しては、予選ラウンドと決勝ラウンドにわかれ、予選ラウンドはセッション方式とし、決勝ラウンドはベルトコンベア方式(ローテーションもしくは1課題ごと)もしくはサドンデス方式とする。

2)エントリークラス(男女)に関しては、予選ラウンドのみでの開催と、予選ラウンドと決勝ラウンドにわかれての開催の2通りの場合がある。どちらの場合も、予選ラウンドはセッション方式とする。  
また、決勝ラウンドの開催とその競技方法は各ジム主催者の判断により決定できる。

1.5 各ボルダーは、使用可能ホールドをテープで明示する。それ以外のホールドを選手は使用することができない。また、壁の形状等は特に制限がない限り使用することができる。ただし、黒色テープにより明示されたデマケーション内は使用することができない。

1.6 各ボルダーには、アテンプトを開始するスタートホールドに『S』、ボーナスポイントに『B』(ボーナスポイントが複数個存在する場合には『B2』・『B1』とする)、最終ホールドに『G』を明示する。最終ホールドの代わりに、ボルダーの上に立ち上がることなどで代替する場合もある。また、各ボルダーのスタートにはボルダーNo.を明示する。

1.7 安全上の理由によりエリアわけをする場合がある。その場合は、課題に使用しているテープの色と黒色以外のテープにより明示する。

1.8 各シリーズ戦の終了後には、最終順位及び予選ラウンドでの完登数とボーナスポイント数に応じて、各カテゴリーそれぞれに『シリーズポイント』が与えられる。

1.9 各カテゴリーの年間順位は、各シリーズで与えられたポイントのうち上位4戦のポイントを合計し集計する。また、各カテゴリーで得られたシリーズポイントは、そのカテゴリーでのみ有効とする。

## 2 競技中

- 2.1 アテンプトは、定められたスターティング・ポジションから選手の身体のあらゆる部位が地面から離れたときに開始とする。  
※スターティング・ポジションとは、定められたスタートホールドを両手(左右異なる場合もある)で保持し、両足を定められたホールドか壁に置く状態である。
- 2.2 ボーナスポイントは予選ラウンドでは各ボルダーに1つ、決勝ラウンドでは各ボルダーに1~2つ設定される。選手はこのボーナスポイントを保持することにより認定される。また、選手はそのボーナスポイントを使用せずに完登した場合も認定される。
- 2.3 アテンプトは、選手がボルダーの頂上に達したことをジャッジが認め『OK』と宣言したときに完登と認定される。  
※ボルダーの頂上とは、最終ホールドに両手が達すること。またはボルダーの上に立ち上がること。
- 2.4 クリーニングはジャッジに要求することができる。また、選手は地面から届くところのホールドを自らクリーニングすることもできる。ただし、チョークをつけること、またはティクマークをつけることは1回のアテンプトに数えられる。
- 2.5 以下に示す場合はアテンプトが成功しなかったとみなされ、1回のアテンプトに数えられジャッジにより中止を宣言される。
  - 1) スターティング・ポジションに達せられなかった場合。
  - 2) 1.5に規定する使用制限を違反してホールドまたは壁の形状等を使用した場合。
  - 3) いずれの部位であれ選手の身体が地面に触れた場合。
  - 4) スタートホールド以外に、選手の身体のあらゆる部分が触れた場合。

## 3 予選ラウンド

- 3.1 予選ラウンドは**レギュラー男子・エントリー男子・レギュラー女子・ファンクラスともにセッション方式**であり、ボルダー数は**12**とする。また各ボルダーにはボーナスポイントが1つ設定されている。
- 3.2 スコアカードは選手が保管する。紛失した場合は失格とする。
- 3.3 選手はアテンプトを希望するボルダーまたはエリアに並び、アテンプト前にスコアカードをジャッジに手渡しボルダーNo.を申告してからアテンプトを開始する。
- 3.4 アテンプトの結果はジャッジが記入する。
- 3.5 アテンプト終了後はジャッジからスコアカードを受け取る。その際に間違い等があればその場でジャッジに申告する。時間が経過してからの申告は無効とする。
- 3.6 予選ラウンドのセッションタイムは各ジム主催者の判断により設定できる。また、時間の延長等も各ジム主催者の判断により決定できる。
- 3.7 予選ラウンドのセッションタイム内のアテンプトは有効とする。
- 3.8 予選ラウンド終了後、各選手はただちにスコアカードを指定されたスタッフに手渡す。時間が経過してから手渡された場合は無効とする。

## 4 決勝ラウンド

- 4.1 **レギュラー男子・エントリー男子・レギュラー女子では決勝ラウンドが開催される。また、ファンクラスは決勝ラウンドの開催とその競技方法は各ジム主催者の判断により決定できる。**  
**そのため、以下の競技規則はレギュラー男子・エントリー男子・レギュラー女子のみで適用される。**
- 4.2 決勝ラウンドはベルトコンベア方式であり、ローテーション(ワールドカップの予選・準決勝)もしくは1課題ごと(ワールドカップの決勝)の2つの方式のうち各ジム主催者の判断により決定することができる。
- 4.3 ボルダー数は3~4とする。また、各ボルダーにはボーナスポイントが1~2つ設定されている(2つの場合は最終ホールドに近いほうから『B1』・『B2』)。決勝ラウンドのボルダー数およびボーナスポイント数は各ジム主催者の判断により決定することができる。

- 4.4 決勝ラウンドの定員は6名とし、予選ラウンドの上位者から埋められる。ただし定員を超過した場合、多い方の人数の選手が決勝ラウンドに進出できる。
- 4.5 決勝ラウンドの競技順は、予選ラウンドの順位の下位者からとする。
- 4.6 ローテーション・ピリオドは4分間とする。オブザベーションは各ピリオド内に含む。
- 4.7 スコアカードは選手が保管する。紛失した場合は失格とする。
- 4.8 選手はアテンプト前にスコアカードをジャッジに手渡してからアテンプトを開始する。
- 4.9 アテンプトの結果はジャッジが記入する。
- 4.10アテンプト終了後はジャッジからスコアカードを受け取る。その際に間違い等があればその場でジャッジに申告する。時間が経過してからの申告は無効とする。
- 4.11ローテーション・ピリオド終了時には、登っている選手は登るのをやめ、休憩エリアに入らなければならない。このエリアでは、いずれのボルダーのオブザベーションも認められない。その休憩時間の終了した選手は、次のボルダーに移動しなければならない。
- 4.12決勝ラウンドが終了した選手は、ただちにスコアカードを指定されたスタッフに手渡す。時間が経過してから手渡された場合は無効とする。
- 4.13その他、決勝ラウンドの競技規則は必要に応じて各ジム主催者の判断により変更することができる。

## 5 テクニカル・インシデント

- 5.1 テクニカル・インシデントは以下のようなものである。
  - 1) ホールドの破損または緩み。
  - 2) その他、選手の動作の結果ではないところのことがらが、選手に不利または有利にはらたいた。
- 5.2 予選ラウンドにおいて、ホールドの破損または緩みによるテクニカル・インシデントが発生した場合、その修復をした後、被害選手からアテンプトを再開する。ただし、被害選手がそれを望まない場合には列に並ぶ先頭選手から再開する。  
また、修復に多大な時間を要した場合には、各ジム主催者の判断によりセッションタイムを延長することができる。
- 5.3 決勝ラウンドにおいて、ホールドの破損または緩みによるテクニカル・インシデントが発生し、当該ローテーション・ピリオドの終了前に修復された場合、被害選手はそのアテンプトを継続するかどうかを申し出る機会を与えられる。
  - 1) その選手が継続を望む場合は、テクニカル・インシデントは終了し、以後、それ以上の申し立ては認められない。
  - 2) その選手が継続を望まない場合は、テクニカル・インシデントが発生したボルダーへのアテンプトをラウンド終了後に継続しておこなうことになる。この場合、各ジム主催者は、その選手が、そのアテンプトを継続するのに認められる時間設定を決定する。選手は2分を最低として、インシデントが生じたときの残り時間が認められる。
- 5.4 決勝ラウンドにおいて、ホールドの破損または緩みによるテクニカル・インシデントが発生し、当該ローテーション・ピリオドが終了しても修復されなかった場合、タイムアップの合図の時点で、そのラウンドは被害選手、及びそれ以前のボルダーにいた全ての選手についてラウンドを停止される。それ以外の選手はラウンドを継続する。  
修復後、被害選手は2分を最低として、インシデント発生時の残り時間が保証される。  
この後、ラウンドを停止されていた全選手に対し、合図をもって再開される。

## 6 各ラウンド後の順位

- 6.1 予選ラウンド後、選手は以下の基準で順位付けされる。
  - 1) 完登したボルダー数
  - 2) ボーナスポイントの数
- 6.2 決勝ラウンド後、選手は以下の基準で順位付けされる。
  - 1) 完登したボルダー数

- 2) 完登までのアテンプト数の合計
- 3) ボーナスポイントの数
- 4) ボーナスポイントに到達するまでのアテンプト数の合計

ただし、ボーナスポイントが2つ設定されている場合は、ボーナス1の3)と4)を優先し、次いでボーナス2の3)と4)により順位付けされる。

6.3 決勝ラウンドで同着がある場合、予選ラウンドにさかのぼってカウントバックを適用し最終順位を決める。

6.4 ファンクラスにおいて予選ラウンドのみでの開催の場合には、予選の順位がそのまま最終順位となる。

## 7 シリーズポイント

7.1 各シリーズ戦の終了後には、最終順位及び予選ラウンドでの完登数とボーナスポイント数に応じて、各カテゴリーそれぞれに『シリーズポイント』が与えられる。

7.2 シリーズポイントは以下の通りである。

予選ラウンド		最終順位	
完登	3	1位	100
ボーナスポイント	1	2位	70
		3位	50
		4位	40
		5位	30
		6位	20

※ 例として、予選ラウンドで6完登8ボーナスポイント・最終順位が5位の選手には『6(完登)×3+2(ボーナスポイント)×1+30(最終順位ポイント)=50ポイント』が与えられる。

7.3 決勝ラウンドで同着になる各選手が獲得するポイントは、同着になった各順位に対応する全ポイントの平均となる。ポイントは小数点以下を四捨五入する。

※例として、2位が2名の場合はそれぞれ50ポイントが与えられ、2位が3名の場合はそれぞれ43ポイントが与えられる。

7.4 各カテゴリーの年間順位は、各シリーズで与えられたポイントのうち上位4戦のポイントを合計し集計する。

また、各カテゴリーで得られたシリーズポイントは、そのカテゴリーでのみ有効とする。

※例として、エントリー男子で得たシリーズポイントはレギュラー男子では無効である。

改正:2011年09月08日